



→春のこの時期、江戸川の水もいまがいちばん美しい。

←ユキヤナギの枝にカマキリが、たくさん卵を産んでいた。それも地上1mあたりが多かった。



今日から矢切の渡しは夏ダイヤになり雨天や強風の日、江戸川の氾濫日以外は平日も運航する。

今日はその二日目だ。日差しもあり風もなく、穏やかないいひよりだ。

矢切の渡しに着くと、舟頭さんが空に向かって手をかざしながら、

「ずいぶん太陽（ひ）が高くなったねえ。こんなだよ」

空を仰ぐと、つい三ヶ月前まで太陽は南に傾いていたが、いまは四十五度近いあたりまで高くなっている。

そういえば、あと一週間ほどすると昼と夜の時間がおなじになる春分だ。

日の出の時間もいまは午前六時ごろだし日没も午後六時に近い。

「それにしても今年は土日に雨が降らなかつたねえ。だけど……」

たしかに年が明けてから今日まで雨が少なかった。テレビでは早くも気象予報士たちが関東地方のダムの水が少なく、夏を心配をさせてくれる。

「いま雨が少ないということは、その反動で夏が心配なんだ。雨もそうだし台風がねえ」

今週のクマ

→西洋人がしきりにクマを珍しい犬だと写真を撮っていた。



→春の日溜まりに園芸種なのかスマレが咲いていた。矢切の農家にはこの花が多い。



舟頭さんがそんなに心配するならば、周辺を歩いてみた。カマキリの卵を探すためだ。

カマキリが高いところに産卵すると冬は大雪だという民間伝承があるが、大雨による川の氾濫とも関係があるのではないかと思っただからだ。

すると矢切の渡しに来る途中のユキヤナギの木に産卵していたカマキリの卵は地上1メートルあたりに多かった。

川の氾濫とカマキリの卵が関係あるかどうかはわからないが、少なくとも大雪はむかしからいわれていることだ。それなら大水が出るかどうかも関係があるかもしれない。

舟頭さんにそのことを告げたら、「よししてよ、オレ、台風と洪水だけはいやなんだから……」

台風がくると大雨が降る。江戸川の水がふえ、矢切の渡しの水没する。そうすると十日ちかく営業できない。

営業できないければ収入がはいってこない。収入がないということは、サラリーマンなら給料がはいらないのとおなじなのだ。ともかく天に祈ろう。そういいながら舟頭さんは仕事を始めた。